平成18年度

ふじマイスター「匠人（たくみびと）」決定！

ふじマイスター「匠人」

富士市のものづくりを支え、次代に技術・技能を伝承するその道の名人、ふじマイスター「匠人」。8月に、今年度の匠人が認定されましたのでご紹介します。

平成18年度ふじマイスター「匠人」

左官 渡邉好章（わたなべよしのり）さん（石坂）

インタビュー

「左官」という仕事を大切にし、技を継承していく

好きで飛び込んだ左官業

左官とは、壁をこてで塗る人のことです。父親が左官だったので、中学生のころから、仕事の手伝いをしていました。中学卒業後、何の迷いもなくこの道に入り、ことしで54年が経ちました。

私たちの仕事は、何もない平らな状態から始まります。材料を塗り重ねて形づくり、仕上げていきます。その塗る過程で、技術が必要になります。例えば、よく使用する焼石こうは、気温や水によって固まり方が変わってきます。そこを調節するのが腕の見せどころです。

匠人の技が施された「なまこ壁」

日々勉強し、技を磨く

私は、仕事から帰ると必ずニュース番組を見ます。そこから気になった情報をメモし、仕事に役立てています。現在の課題は、地震に強くより耐久性のあるものや、アトピーなどに配慮した、人により優しいものをつくることです。ただ目の前の仕事をこなすだけでなく、よりよいものをつくる努力が必要ですね。

今回匠人となり、これを誇りに思うと同時に、技を継承しなければならない責任を感じました。今まで歩んできた道を大切にし、若い人たちに技を伝えたいと思っています。

「匠人」の認定式に妻の智子さんと出席（８月２日）

ふじマイスター匠人って？

市は、平成17年度から、全国的にも通用する卓越した技術・技能を持つ人を、ふじマイスター「匠人」として認定しています。マイスターとは、ドイツ語で親方、名人の意味です。

昨年度は３人が認定され、ことしは、自薦・他薦による５人の中から１人が選ばれました。

匠人に認定されると、市長から認定証が手渡され、匠人の家にはケヤキの表札（右）がかけられます。

匠人の役割は伝承

- 技能フェスティバルなど市の事業への協力
- 学校や公民館などの講師となり、市民に基礎知識をわかりやすく指導
- 優れた技術・技能を継承するよう、後継者の指導・育成

10月7日(土)・8日(日)にラ・ホール富士で行われる「富士市技能フェスティバル」で、匠人の技をごらんいただけます。自分の目ですばらしい技を見てみませんか。

問い合わせ　商業労政課　☎55-2778　FAX51-1997